

関西女子学生バスケットボール連盟

2022 年度 第 5 回 理事会 議事録（案）

日 時 ： 2022 年 11 月 28 日(月) 19：00～20：30

場 所 ： ZOOM による遠隔会議

出席者

〔理事長〕 丸岡信吾

〔副理事長〕 荒木初広、西川幸穂

〔理事〕 古本ルミ、畑岸邦枝、坂井和明、柳生志乃、山中博史、玉井里英、
岸本里紗、村田尚美、頼富未喜、村上なおみ、山本孝、佐藤亜紀子、
瀧本真己、小林未季代、中原英博、東亜弓、今西正泰、
玉城耕二、平田緩子

〔学生委員〕 山下果歩、前川由衣、本庄由依、金崎睦、神田百代、奈良井愛海、
門脇早希、島美悠、永吉芽衣、山路佳奈、高田奈々、足立奈月、
鶴田彩海、大久保結子、秋岡茉菜、上野なつな、松尾玖美、深井愛子
藤浪真子、小尾紅音

書 記 ： 秋岡茉菜

古本総務部長から出席状況の確認があり、連盟規約の要件を満たしており、本日の会議は成立することが報告された。慣例により、丸岡理事長を議長として議事進行することとした。

〈審議事項〉

1. 2022 年度リーグ戦の振り返りについて

(1)競技部、永吉より資料を用いながら、各部のリーグ戦の結果について説明された。また、各部の最終結果について、一部訂正があることが説明された。会議後訂正された資料を共有することとした。

(2)リーグ戦期間中のコロナ感染者の報告と対応について

総務部、山下より資料 2 枚用いて説明された。13 大学の方から感染あるいは濃厚接触に

当たる者が出たという報告があったとのこと。今大会では、コロナによる日程変更はなかったと報告された。各大学によってコロナの報告書の書き方や、記入者が異なっていたため、来年度同様の手段をとる場合は、主務やマネージャーなど学生ではなく、大学の責任者である部長や監督など、大人の方に記入していただいて提出してもらうようにし、加えて学連でフォームを作成すると報告があった。

丸岡理事長より、責任者になる方を明確に出してもらい、その方への連絡という対応をとることで、連絡および対応がスムーズにできたとの補足説明があった。

(3)各部からの振り返り

[総務部]

山下より、資料1枚用いて説明された。エントリーの際に代表者に伝えるのに加え、クォーター終わりやハーフタイムの際にも、再度交代の時の消毒とクーリングスペースの使用を促す。発送前に入念にチェックすることで、消毒液の漏れを防ぐ。表彰関係では、リハーサルを入念に行ったため本番がスムーズに行えたので今後も積極的に行っていききたいとの報告があった。

[広報渉外部]

金崎より、資料2枚用いて説明された。順位決定法をメール配信の際に記載すること、HPの更新頻度を増やすことを改善点として挙げた。良かった点として、バスケットプラス講習会を行ったことで、個人賞に反映される本数が大幅に増えた。また、今大会から一眼レフでの撮影に挑戦し、以前よりもSNSの質を高めることができた。これからも続けていくために、一眼レフの購入を希望した。

[競技部]

前川より、資料1枚用いて説明された。会場を押さえる際に、公営体育館とのやり取りにすれ違いが生じた。具体的には、羽曳野コロセアム会場との打ち合わせの際に、会場の手配ができていないことが発覚した。急遽、関西外国語大学に会場の提供をしていただいた。もともと無観客試合だったため、保護者の方に迷惑がかからなかったが、打ち合せは早めに行うことを反省点として挙げた。また、発送した荷物が指定した日時に届いているかの確認ができておらず、試合当日に荷物が届いていないことがあり、設営が遅れてしまった。改善点として、荷物の到着予定日に大学や公営体育館に荷物が届いているかの確認の電話を入れることを徹底することとした。さらに、2部ゲームにおいて発生した監督・スタッフの遅刻によるベンチワークの可否についての説明に誤りがあったことと、パンフレット掲載からタイムスケジュールに大幅な変更があったため、パンフレット購入者に迷惑をかけてしまったという報告があった。

[強化部]

特になし。

[審判部]

高田より、資料 1 枚用いて説明された。今大会は、帯同審判として 7 名に審判を受けていただいた。来年度からは、ライセンスを持っている多くの学生に審判の依頼をしていきたいと報告があった。連日試合があり、ミスが増えたため、部署内で役割分担をし、計画通り作業ができるようにしていくとの反省があった。

[財務部]

門脇より、資料 1 枚用いて説明があった。9 月 10 日天理大学で行われた際に、パンフレットの売り上げ冊数と金額が一致しなかった。改善点として、来年度から一日のパンフレットの売り上げ冊数を記入するリストを作成することとした。また、ウェブ販売の売り上げ冊数が減少したが、今大会の売り上げ冊数から会場での売り上げが見込めるため、これからも積極的に会場での販売を行っていききたいとの報告があった。

古本総務部長より、パンフレットの販売についての詳細の説明があった。昨年度は有観客での試合の開催がなかったため会場での販売ができなかったが、今年度は有観客での試合が開催されたため、会場での販売もある程度できたので、昨年度と比べ、売り上げは伸びたと考えられると説明された。

2. 秋季トーナメントの概況について

総務部、島より反省については、次の理事会で報告されると説明があった。最終結果について、競技部、永吉より発表された。今大会から行われた、大会運営に協力的な学連員が応援したくなるようなチームに送られるグッドチーム賞の受賞チームについて島より発表された。また、コロナに関して、対戦チームにコロナ罹患者が発生したことで森ノ宮医療大学が次の試合を棄権しなければならないという状況が起こってしまった。大阪大学が、けが人等による人数不足によって試合を棄権したことが説明された。財務部からは、森ノ宮医療大学には、勝ち上がり金を返金するとの追加説明があった。

5. 広告依頼の取り組みについて

広報渉外部、山路より資料 2 枚用いて説明された。2021、2022 年度の協賛企業の実績について、2022 年度については、HP が 2 社、パンフレットが 4 社の新規の協賛をいただいており、2021 年度と比べると 82 万円の増額となっており、2023 年度の広告依頼は年明けから開始するので、協力をお願いしたいとの要請があった。

〈報告事項〉

1. 2023 年度学生委員会体制について

総務部、島を委員長とし、競技部、永吉、広報渉外部、山路を副委員長として体制が組まれた。各部の体制について発表された。

2. 学連員の選出状況について

総務部、島より、依頼文書を作成し、各大学の部長宛てに送り、理事を通じて選出してもらうとの説明があった。

3. 全日本学生バスケットボール選手権大会について

丸岡理事長より、関西からの出場チームについては、16 シード以外のチームは予選ブロックを 2 試合行って、トーナメント方式にするとの報告があった。出場校の総数はこれにより 32 チームから 40 チームに増えている。立命館大学、大阪体育大学、武庫川女子大学については 12 月の皇后杯予選（大阪開催）の後からの参加になる予定とされている。

〈その他〉

1. 今後の日程

四回生を送る会を 1 月 21 日（土）17：00 からホテルクライトン江坂で実施予定。
次回理事会は 1 月ごろを予定。

古本総務部長より閉会を宣し、理事会を終了した。

以上